試験ガイド (DVA-C03)

AWS Certified Developer - Associate



Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

AWS Certified Developer - Associate: 試験ガイド (DVA-C03)

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon's trademarks and trade dress may not be used in connection with any product or service that is not Amazon's, in any manner that is likely to cause confusion among customers, or in any manner that disparages or discredits Amazon. All other trademarks not owned by Amazon are the property of their respective owners, who may or may not be affiliated with, connected to, or sponsored by Amazon.

Table of Contents

AWS Certified Developer - Associate (DVA-C03) 1
はじめに 2
受験対象者について 2
推奨される IT 全般の知識 2
推奨される AWS の知識 2
受験対象者にとって試験対象外となるジョブタスク 3
試験内容 3
解答タイプ 3
採点対象外の設問 4
試験の結果 4
試験内容の概要 4
コンテンツ分野 1: AWS のサービスによる開発 5
タスク 1.1: AWS でホストされているアプリケーションのコードを開発する。 5
タスク 1.2: AWS Lambda 用コードを開発する。 5
タスク 1.3: アプリケーションの開発中にデータストアを使用する。 6
コンテンツ分野 2: セキュリティ 6
タスク 2.1: アプリケーションと AWS のサービスの認証および認可メカニズムを実装する。 6
タスク 2.2: AWS のサービスを使用して暗号化を実装し、機密データを管理する。 7
タスク 2.3: AI サービスの利用とアプリケーション開発への統合に関連するセキュリティリスクを特定して軽減する。 7
コンテンツ分野 3: テストとデプロイ 8
タスク 3.1: AWS にデプロイするアプリケーションアーティファクトを準備する。 8
タスク 3.2: AWS 環境でアプリケーションテストを実装して自動化する。 8
タスク 3.3: AWS の継続的インテグレーションおよび継続的デリバリー (CI/CD) サービスを使用してコードをデプロイする。 9
コンテンツ分野 4: トラブルシューティングと最適化 9
タスク 4.1: 根本原因分析を支援する。 10
タスク 4.2: ログ記録、モニタリング、オブザーバビリティのベストプラクティスを適用する。 10
タスク 4.3: AWS のサービスと機能を使用してアプリケーションを最適化する。 10
テクノロジーと概念 11
試験での AWS サービスへの言及 11
対象の AWS サービス 12

分析 12
アプリケーション統合 12
コンピューティング 12
コンテナ 12
データベース 13
デベロッパーツール 13
機械学習と人工知能 13
マネジメントとガバナンス 13
ネットワークとコンテンツ配信 14
セキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンス 14
ストレージ 14
対象外の AWS サービス 15
分析 15
ビジネスアプリケーション 15
エンドユーザーコンピューティング 15
ゲーム関連テクノロジー 16
機械学習と人工知能 16
マネジメントとガバナンス 16
メディア 16
移行と転送 16
セキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンス 16
ストレージ 16
DVA-C02 と DVA-C03 の比較 17
対照比較 17
DVA-C03 でのコンテンツの追加 17
DVA-C03 でのコンテンツの再分類 19
DVA-C03 の構造的な変更 19
アンケート 20

AWS Certified Developer - Associate (DVA-C03)

AWS Certified Developer - Associate (DVA-C03) 試験は、デベロッパーの役割を担う方を対象としています。本試験では、受験者の AWS クラウドベースのアプリケーションの開発、テスト、デプロイ、デバッグの習熟度を検証します。これには、AI 支援開発ツールも含まれます。

注記: AWS 試験ガイドは、各認定試験において認定対象となる職務に関連する最新の AWS のサービスおよび機能を確認し、スキルをテストするために、定期的に見直され、改訂されています。試験ガイドの改訂版は、変更内容が試験に反映される少なくとも 1 か月前に公開されます。変更の概要については、「改訂」セクションをご確認ください。

注記: この試験は更新中です。本試験の更新バージョン (DVA-C03) は 2026 年 12 月 1 日に申し込み受付を開始します。本試験の現行バージョン (DVA-C02) の最終受験日は 2026 年 11 月 30 日です。

トピック

- はじめに
- 受験対象者について
- 試験内容
- 試験内容の概要
- コンテンツ分野 1: AWS のサービスによる開発
- コンテンツ分野 2: セキュリティ
- コンテンツ分野 3: テストとデプロイ
- コンテンツ分野 4: トラブルシューティングと最適化
- テクノロジーと概念
- 試験での AWS サービスへの言及
- 対象の AWS サービス
- 対象外の AWS サービス
- DVA-C02 と DVA-C03 の比較
- アンケート

はじめに

本 AWS Certified Developer - Associate (DVA-C03) 試験は、デベロッパーの役割を担う方を対象としています。本試験では、受験者の AWS クラウドベースのアプリケーションの開発、テスト、デプロイ、デバッグの習熟度を検証します。これには、AI 支援開発ツールも含まれます。

また、次のタスクについての受験者の能力も検証します。

- AWS でのアプリケーションの開発および最適化
- AI ツールを使用したアプリケーションの開発
- 継続的インテグレーションと継続的デリバリー (CI/CD) ワークフローを使用したアプリケーションのパッケージ化およびデプロイ
- アプリケーションコードとデータの保護
- アプリケーションの問題の特定と解決

受験対象者について

受験対象者には、AWS のサービスを使用したアプリケーションの開発と保守における 1 年以上の実務経験が必要です。

推奨される IT 全般の知識

受験対象者は、次のような IT 全般の知識を有している必要があります。

- 最低 1 種類の高水準プログラミング言語の習熟
- アプリケーションライフサイクル管理に関する理解
- アプリケーション開発のためのクラウド集中型アプリケーションの基礎的な理解
- AI ツールを含むアプリケーション開発ツールの使用経験
- AI 支援開発ワークフローに関する知識

推奨される AWS の知識

受験対象者は、次のタスクを完了できる必要があります。

- AWS サービス API、AWS CLI、SDK を使用したアプリケーションの開発および保護

- CI/CD パイプラインを使用した AWS でのアプリケーションのデプロイ
- AI ツールと AI サービスを使用した、高品質なコードの開発、テスト、リリースのサポート
- マネージド AI サービスのアプリケーションへの統合

受験対象者にとって試験対象外となるジョブタスク

受験対象者が実施できることが想定されていないジョブタスクは、次のリストのとおりです。このリストはすべてを網羅しているわけではありません。次のタスクは、本試験の範囲外です。

- アーキテクチャの設計 (分散システム、マイクロサービス、データベーススキーマ、モデリングなど)
- CI/CD パイプラインの設計と作成
- IAM のユーザーとグループの管理
- サーバーとオペレーティングシステムの管理
- 基盤モデル (FM) の選択、AI プロンプトのエンジニアリング、検索拡張生成 (RAG) アーキテクチャの設計
- AI 安全フレームワークの設計、ガードレールの実装、AI ガバナンスの実装
- 抽出、変換、ロード (ETL) パイプラインの設計と作成
- AWS ネットワークインフラストラクチャの設計

この試験ガイドには、試験に出題される可能性のあるテクノロジーと概念のリスト、試験対象の AWS のサービスと機能のリスト、試験対象外の AWS のサービスと機能のリストも含まれています。

試験内容

解答タイプ

試験には次の 2 種類の設問があります。

- 択一選択問題: 正しい選択肢が 1 つ、誤った選択肢 (不正解) が 3 つ提示される。
- 複数選択問題: 5 つ以上の選択肢のうち、正解が 2 つ以上ある。設問に対する点数を得るには、正解をすべて選択する必要がある。

未解答の設問は不正解とみなされます。推測による解答にペナルティはありません。試験には、スコアに影響する設問が 50 問含まれています。

採点対象外の設問

試験には、スコアに影響しない採点対象外の設問が 15 問含まれています。AWS では、これら採点対象外の設問における成績情報を収集し、これらの設問を今後採点対象の設問として使用できるかどうかを評価します。試験では、どの設問が採点対象外かは受験者にわからないようになっています。

試験の結果

AWS Certified Developer - Associate (DVA-C03) 試験は、合否判定方式です。試験の採点は、認定業界のベストプラクティスおよびガイドラインに基づいた、AWS の専門家によって定められる最低基準に照らして行われます。

試験の結果は、100 ~ 1,000 の換算スコアとして報告されます。合格スコアは 720 です。このスコアにより、試験全体の成績と合否がわかります。複数の試験間で難易度がわずかに異なる可能性があるため、スコアを均等化するために換算スコアが使用されます。

スコアレポートには、各セクションの成績を示す分類表が含まれる場合があります。試験には補整スコアリングモデルが使用されるため、セクションごとに合否ラインは設定されておらず、試験全体のスコアで合否が判定されます。

試験の各セクションには特定の重みが設定されているため、各セクションに割り当てられる設問数が異なる場合があります。分類表には、受験者の得意分野と不得意分野を示す全般的な情報が含まれます。セクションごとのフィードバックを解釈する際は注意してください。

試験内容の概要

この試験ガイドには、試験に設定された重み、コンテンツ分野、タスク、スキルについての説明が含まれています。本ガイドは、試験内容の包括的なリストを提供するものではありません。

本試験のコンテンツ分野と重み設定は、次のとおりです。

- コンテンツ分野 1: AWS のサービスによる開発 (採点対象コンテンツの 30%)
- コンテンツ分野 2: セキュリティ (採点対象コンテンツの 26%)
- コンテンツ分野 3: テストとデプロイ (採点対象コンテンツの 22%)
- コンテンツ分野 4: トラブルシューティングと最適化 (採点対象コンテンツの 22%)

コンテンツ分野 1: AWS のサービスによる開発

タスク

- タスク 1.1: AWS でホストされているアプリケーションのコードを開発する。
- タスク 1.2: AWS Lambda 用コードを開発する。
- タスク 1.3: アプリケーションの開発中にデータストアを使用する。

タスク 1.1: AWS でホストされているアプリケーションのコードを開発する。

- スキル 1.1.1: 密結合システムと疎結合システムを識別し、AWS のサービスを使用してシステムコンポーネントを疎結合化する。
- スキル 1.1.2: 同期パターンと非同期パターンのどちらを使用するか選択する (Amazon API Gateway の同期呼び出し、Amazon SQS ベースの非同期処理、Amazon EventBridge を使用したイベント駆動型ワークフローなど)。
- スキル 1.1.3: 耐障害性に優れたレジリエントなアプリケーションを作成して維持する (バックオフを伴う再試行の設定、グレースフルデグラデーションの実装など)。
- スキル 1.1.4: API を作成し、拡張して、管理する (検証ルールを強制してレスポンス/リクエスト変換を設定するなど)。
- スキル 1.1.5: API と AWS SDK を使用して AWS サービスとやり取りするコードを開発する。
- スキル 1.1.6: AWS のサービスを使用してストリーミングデータを管理する。
- スキル 1.1.7: データをシリアル化および逆シリアル化して、アプリケーションコードを AWS のサービスと統合する。
- スキル 1.1.8: イベント駆動型パターンを実装する (EventBridge、Amazon S3 イベント通知、Amazon SQS、Amazon SNS の使用などによる)。
- スキル 1.1.9: AI 支援開発ツールを使用して、コードの生成、レビュー、最適化を行う (仕様駆動型コード生成、自動化されたコードレビュー、インテリジェントなコード補完、リファクタリングの提案、セキュリティスキャンなど)。
- スキル 1.1.10: マネージド AWS AI サービスをアプリケーションに統合する。

タスク 1.2: AWS Lambda 用コードを開発する。

- スキル 1.2.1: Lambda 関数に VPC 内のプライベートリソースへのアクセス権を付与する。

- スキル 1.2.2: 環境変数とパラメータ (メモリ、同時実行数、タイムアウト、ランタイム、ハンドラー、レイヤー、拡張機能など) を定義することで Lambda 関数を設定する。
- スキル 1.2.3: イベントのライフサイクルとエラーを処理する (Lambda 送信先、デッドレターキューの使用などによる)。
- スキル 1.2.4: コード、イベントソースマッピング、送信先を使用して、Lambda 関数を AWS のサービス (API Gateway、Amazon DynamoDB など) と統合する。

タスク 1.3: アプリケーションの開発中にデータストアを使用する。

- スキル 1.3.1: データライフサイクルを管理する (Amazon S3 ライフサイクルポリシー、TTL、保持期間の使用などによる)。
- スキル 1.3.2: アクセスパターンに基づいて AWS データストア (Amazon ElastiCache、DynamoDB、Amazon S3、Amazon RDS など) を選択する。
- スキル 1.3.3: データストアの選択に基づいて適切なキャッシュソリューションを決定する。
- スキル 1.3.4: アプリケーションをサポートするように DynamoDB を設定する (カーディナリティの高いパーティションキーの選択、読み取り整合性モデルの適用、クエリとスキャンオペレーションの実行、キー/属性/インデックスの定義などによる)。

コンテンツ分野 2: セキュリティ

タスク

- タスク 2.1: アプリケーションと AWS のサービスの認証および認可メカニズムを実装する。
- タスク 2.2: AWS のサービスを使用して暗号化を実装し、機密データを管理する。
- タスク 2.3: AI サービスの利用とアプリケーション開発への統合に関連するセキュリティリスクを特定して軽減する。

タスク 2.1: アプリケーションと AWS のサービスの認証および認可メカニズムを実装する。

- スキル 2.1.1: ID フェデレーションを実装する。
- スキル 2.1.2: アクセスコントロールを実装する (きめ細かいアクセス許可、セキュリティトークン、MFA など)。
- スキル 2.1.3: AWS へのプログラムによるアクセスを設定する。

- スキル 2.1.4: 署名付き URL を使用して、安全で時間制限のあるアクセスを提供する (Amazon S3 および Amazon CloudFront の使用などによる)。
- スキル 2.1.5: AWS のサービスに対して認証された呼び出しを行う。
- スキル 2.1.6: IAM プリンシパル (ユーザー、ロール、サービスなど) とリソースのアクセス許可を定義する。
- スキル 2.1.7: IAM ロールを引き受ける。

タスク 2.2: AWS のサービスを使用して暗号化を実装し、機密データを管理する。

- スキル 2.2.1: 保管中と転送中の暗号化を適用する。
- スキル 2.2.2: AWS のサービス (AWS Certificate Manager、AWS Private CA など) を使用して証明書を管理する。
- スキル 2.2.3: クライアント側またはサーバー側の暗号化を選択して適用する。
- スキル 2.2.4: 暗号化キーを使用してデータを暗号化および復号する。
- スキル 2.2.5: 開発目的で証明書と SSH キーを生成する。
- スキル 2.2.6: AWS のサービスを利用して、機密データ (個人を特定できる情報 [PII]、保護対象の健康情報 [PHI] など) を識別してマスキングし、アクセスを制限する。
- スキル 2.2.7: シークレット管理サービスを使用して機密データを保護する。

タスク 2.3: AI サービスの利用とアプリケーション開発への統合に関連するセキュリティリスクを特定して軽減する。

- スキル 2.3.1: AI サービスへのアクセスをリクエストして管理する。
- スキル 2.3.2: データプライバシーコントロールを使用してデータを AI サービスに送信する (VPC エンドポイントを使用してプライベート接続を確立し、入出力が AI モデルのトレーニングに使用されないようにするなど)。
- スキル 2.3.3: AI モデルの入出力をフィルタリングして制御する (コンテンツフィルタリング、機密情報検出、PII/PHI のリダクション、拒否トピックのポリシー、プロンプトインジェクションおよび操作からの保護の適用などによる)。
- スキル 2.3.4: AI エージェントとのやり取りを保護する (ツール使用の認可、セッションの分離、機密性の高いアクションに対するヒューマンインザループ承認フローの使用などによる)。
- スキル 2.3.5: AI サービスとのやり取り中に、モニタリングログ内の機密コンテンツを保護する。

コンテンツ分野 3: テストとデプロイ

タスク

- タスク 3.1: AWS にデプロイするアプリケーションアーティファクトを準備する。
- タスク 3.2: AWS 環境でアプリケーションテストを実装して自動化する。
- タスク 3.3: AWS の継続的インテグレーションおよび継続的デリバリー (CI/CD) サービスを使用してコードをデプロイする。

タスク 3.1: AWS にデプロイするアプリケーションアーティファクトを準備する。

- スキル 3.1.1: パッケージ内でのコードモジュール (環境変数、設定ファイル、コンテナイメージなど) の依存関係を管理する。
- スキル 3.1.2: デプロイ用のコンテナイメージを構築して管理する (Amazon ECR、Docker ファイル、コンテナイメージのタグ付け、ライフサイクルポリシーの使用などによる)。
- スキル 3.1.3: デプロイ環境でコードリポジトリを使用する。
- スキル 3.1.4: AWS のサービス (AWS AppConfig、AWS Systems Manager Parameter Store、AWS Secrets Manager、Amazon API Gateway、AWS Lambda など) を使用して、環境固有のアプリケーション設定を管理する。
- スキル 3.1.5: API Gateway の機能とリソース (ステージ固有の URL、エンドポイントなど) を使用する。

タスク 3.2: AWS 環境でアプリケーションテストを実装して自動化する。

- スキル 3.2.1: テストを開発して検証する (AWS SAM、AWS CDK、AWS CloudFormation の使用などによる)。
- スキル 3.2.2: AWS のサービスやツール (API Gateway など) を使用することにより、外部依存関係用のモック API を使用する。
- スキル 3.2.3: アプリケーションテストイベントを作成する (JSON ペイロードを使用して Lambda 関数や API Gateway API をテストするなど)。
- スキル 3.2.4: アプリケーション環境 (Lambda エイリアス、コンテナイメージタグ、AWS Amplify ブランチ、AWS Copilot 環境、API Gateway API など) を作成して設定する。

- スキル 3.2.5: AWS AI ツールを使用してテストを生成し、反復的なテストワークフローを自動化する (テストの自動実行、テスト結果の分析、回帰テストのオートメーション、テストカバレッジなど)。

タスク 3.3: AWS の継続的インテグレーションおよび継続的デリバリー (CI/CD) サービスを使用してコードをデプロイする。

- スキル 3.3.1: Lambda デプロイのパッケージ方法を使用してデプロイ効率を最適化する (.zip ファイル、コンテナイメージ、レイヤーなど)。
- スキル 3.3.2: AWS コンテナオーケストレーションサービス (Amazon ECS のタスク定義、Amazon EKS マニフェスト、AWS Fargate 起動タイプ、ローリング更新など) を使用して、コンテナ化されたアプリケーションをデプロイする。
- スキル 3.3.3: Infrastructure as code (IaC) テンプレート (CloudFormation テンプレート、AWS SAM テンプレートなど) を使用する。
- スキル 3.3.4: AWS CodeDeploy を使用してアプリケーションの改訂をターゲット環境にデプロイする。
- スキル 3.3.5: AWS CodePipeline を使用して CI/CD パイプラインをオーケストレーションする (リンクされたコードリポジトリからパイプラインを呼び出す、複数の環境への進捗をオーケストレーションするなど)。
- スキル 3.3.6: アプリケーションリリースのデプロイ戦略 (ブルー/グリーン、Canary、ローリングなど) を実装する。
- スキル 3.3.7: AWS のサービス (CloudFormation、CodeDeploy など) を使用して、自動または手動のロールバックを実装する。
- スキル 3.3.8: ソース管理機能を使用して、アプリケーションバージョンとリリース (ラベル、ブランチなど) を管理する。
- スキル 3.3.9: CI/CD のワークフローをサポートするために AWS AI ツールを使用する (デプロイの自動承認、環境のプロビジョニング、デプロイ後の検証など)。

コンテンツ分野 4: トラブルシューティングと最適化

タスク

- タスク 4.1: 根本原因分析を支援する。
- タスク 4.2: ログ記録、モニタリング、オブザーバビリティのベストプラクティスを適用する。

- タスク 4.3: AWS のサービスと機能を使用してアプリケーションを最適化する。

タスク 4.1: 根本原因分析を支援する。

- スキル 4.1.1: アプリケーションコードとサービス統合の問題をデバッグして欠陥を特定する。
- スキル 4.1.2: アプリケーションメトリクス、ログ、トレースを解釈する。
- スキル 4.1.3: ログをクエリして関連データを見つける。
- スキル 4.1.4: 出力ログを使用してデプロイの失敗をトラブルシューティングする。
- スキル 4.1.5: AWS AI ツールを使用してエラー分析を行い、トラブルシューティングの提案を生成する。

タスク 4.2: ログ記録、モニタリング、オブザーバビリティのベストプラクティスを適用する。

- スキル 4.2.1: アプリケーションの動作と状態を記録するための効果的なログ記録戦略を実装する (アプリケーションイベントとユーザーアクション用に構造化されたログ記録の使用などによる)。
- スキル 4.2.2: カスタムメトリクスを出力するコードを実装する。
- スキル 4.2.3: 特定のアクション (クォータ制限、デプロイの完了など) に関する通知アラートを実装する。
- スキル 4.2.4: AWS のサービスとツールを使用してトレースを実装する。
- スキル 4.2.5: ワークロードの状態をモニタリングする (アプリケーションのヘルスチェック、ライブネス機能、レディネスプローブの使用などによる)。

タスク 4.3: AWS のサービスと機能を使用してアプリケーションを最適化する。

- スキル 4.3.1: 同時実行数の概念を適用する (AWS Lambda のプロビジョニングされた同時実行数、Amazon EC2 Auto Scaling、スレッドプールの管理、接続プーリングなど)。
- スキル 4.3.2: アプリケーションのメモリと処理能力を最適化する。
- スキル 4.3.3: アプリケーションメッセージングを最適化する (Amazon SQS キュー、Amazon SNS ファンアウトパターンの使用などによる)。
- スキル 4.3.4: AWS のサービス (Amazon ElastiCache、Amazon DynamoDB Accelerator [DAX]、Amazon CloudFront など) を使用してキャッシュを実装する。

- スキル 4.3.5: AWS のサービス (Amazon CloudWatch など) を使用してパフォーマンスのボトルネックを検出する。
- スキル 4.3.6: AWS AI ツールを使用して最適化の機会を特定する (パフォーマンスのボトルネック検出、リソース使用量の最適化、コード効率の向上など)。

テクノロジーと概念

以下は、試験に出題される可能性のあるテクノロジーと概念のリストです。このリストはすべてを網羅しているわけではなく、また、変更される場合もあります。このリストにおける項目の掲載順序や配置は、その項目の相対的な重みや試験における重要性を示すものではありません。

- 分析
- アプリケーション統合
- コンピューティング
- コンテナ
- データベース
- デベロッパーツール
- ML と AI
- マネジメントとガバナンス
- ネットワークとコンテンツ配信
- セキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンス
- ストレージ

試験での AWS サービスへの言及

AWS 認定では、略語や括弧付き情報を含む周知の AWS サービス名に正式な短縮名を使用して、この試験を容易に読めるようにしています。例えば Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) は、試験では Amazon SNS と記載されます。

試験のヘルプ機能 (すべての問題に用意されています) には、AWS サービスの短縮名と、それに対応する正式名のリストが含まれています。

試験に短縮名で表示されるサービスのリストについては、AWS 認定ウェブサイトの AWS サービス名 を参照してください。リストに含まれているサービスのうち、試験対象外のものは試験に記載されていません。

注記: 略語には、試験で正式名が記述されていないものや、ヘルプ機能に含まれていないものもあります。一部の AWS サービスの正式名には、正式名では記載されない略語が含まれています (Amazon API Gateway、Amazon EMR など) 。また、試験には、受験者が知っていると想定される略語が含まれる場合もあります。

対象の AWS サービス

以下に、試験対象の AWS のサービスと機能のリストを示します。このリストはすべてを網羅しているわけではなく、また、変更される場合もあります。AWS のサービスは、サービスの主要機能に沿ったカテゴリに分類されています。

分析

- Amazon Athena
- Amazon Data Firehose
- Amazon Kinesis
- Amazon OpenSearch Service

アプリケーション統合

- Amazon EventBridge
- Amazon SNS
- Amazon SQS
- AWS Step Functions

コンピューティング

- Amazon EC2
- AWS Elastic Beanstalk
- AWS Lambda

コンテナ

- Amazon ECR

- Amazon ECS
- Amazon EKS

データベース

- Amazon Aurora
- Amazon DynamoDB
- Amazon ElastiCache
- Amazon RDS

デベロッパーツール

- AWS Amplify
- AWS CloudShell
- AWS CodeArtifact
- AWS CodeBuild
- AWS CodeDeploy
- AWS CodePipeline
- AWS X-Ray

機械学習と人工知能

- Amazon Bedrock
- Amazon Bedrock AgentCore
- Amazon Quick
- Kiro

マネジメントとガバナンス

- AWS AppConfig
- AWS CDK
- AWS CloudFormation

- AWS CloudTrail
- Amazon CloudWatch
- Amazon CloudWatch Logs
- AWS CLI
- AWS SAM
- AWS Systems Manager

ネットワークとコンテンツ配信

- Amazon API Gateway
- Amazon CloudFront
- Elastic Load Balancing (ELB)
- AWS PrivateLink
- Amazon Route 53
- Amazon VPC

セキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンス

- AWS Certificate Manager (ACM)
- Amazon Cognito
- AWS IAM
- AWS KMS
- AWS Private CA
- AWS Secrets Manager
- AWS STS
- AWS WAF

ストレージ

- Amazon EBS
- Amazon EFS
- Amazon S3

- Amazon S3 Glacier

対象外の AWS サービス

以下に、試験の対象外となる AWS のサービスと機能のリストを示します。このリストはすべてを網羅しているわけではなく、また、変更される場合もあります。試験の対象となる職種内容にまったく関係のない AWS のサービスは、このリストから除外されています。

トピック

- 分析
- ビジネスアプリケーション
- エンドユーザーコンピューティング
- ゲーム関連テクノロジー
- 機械学習と人工知能
- マネジメントとガバナンス
- メディア
- 移行と転送
- セキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンス
- ストレージ

分析

- Amazon Quick Sight

ビジネスアプリケーション

- Amazon Connect
- Amazon WorkMail

エンドユーザーコンピューティング

- Amazon AppStream 2.0
- Amazon WorkSpaces

ゲーム関連テクノロジー

- Amazon GameLift

機械学習と人工知能

- Amazon Polly
- Amazon Rekognition
- Amazon SageMaker AI
- Strands Agents

マネジメントとガバナンス

- AWS Managed Services (AMS)

メディア

- Amazon Elastic Transcoder

移行と転送

- AWS Application Discovery Service
- AWS Application Migration Service
- AWS Transfer Family

セキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンス

- AWS Shield Advanced
- AWS Shield Standard

ストレージ

- AWS Snow Family

- AWS Storage Gateway

DVA-C02 と DVA-C03 の比較

対照比較

DVA-C02 試験 (2026 年 11 月 30 日まで実施) と DVA-C03 試験 (2026 年 12 月 1 日 から実施) の分野と各分野の採点対象設問の割合は、次の表のとおりです。

DVA-C02 の分野	DVA-C03 の分野
第 1 分野: AWS のサービスによる開発 (32%)	第 1 分野: AWS のサービスによる開発 (30%)
第 2 分野: セキュリティ (26%)	第 2 分野: セキュリティ (26%)
第 3 分野: デプロイ (24%)	第 3 分野: テストとデプロイ (22%)
第 4 分野: トラブルシューティングと最適化 (18%)	第 4 分野: トラブルシューティングと最適化 (22%)

DVA-C03 でのコンテンツの追加

DVA-C03 では、AI サービスの安全な利用に関する 5 つの専門的なスキルに対応する新しいタスクが導入されました。

タスク 2.3: AI サービスの利用とアプリケーション開発への統合に関連するセキュリティリスクを特定して軽減する。

- AI サービスへのアクセスをリクエストして管理する。
- データプライバシーコントロールを使用してデータを AI サービスに送信する (VPC エンドポイントを使用してプライベート接続を確立し、入出力が AI モデルのトレーニングに使用されないようにするなど)。
- AI モデルの入出力をフィルタリングして制御する (コンテンツフィルタリング、機密情報検出、PII/PHI のリダクション、拒否トピックのポリシー、プロンプトインジェクションおよび操作からの保護の適用などによる)。
- AI エージェントとのやり取りを保護する (ツール使用の認可、セッションの分離、機密性の高いアクションに対するヒューマンインザループ承認フローの使用などによる)。

- AI サービスとのやり取り中に、モニタリングログ内の機密コンテンツを保護する。

タスク 1.1 に、次のコンテンツが追加されました。

- AI 支援開発ツールを使用して、コードの生成、レビュー、最適化を行う (仕様駆動型コード生成、自動化されたコードレビュー、インテリジェントなコード補完、リファクタリングの提案、セキュリティスキャンなど)。
- マネージド AWS AI サービスをアプリケーションに統合する。

タスク 2.1 に、次のコンテンツが追加されました。

- 署名付き URL を使用して、安全で時間制限のあるアクセスを提供する (Amazon S3 および Amazon CloudFront の使用などによる)。

タスク 3.1 に、次のコンテンツが追加されました。

- デプロイ用のコンテナイメージを構築して管理する (Amazon ECR、Docker ファイル、コンテナイメージのタグ付け、ライフサイクルポリシーの使用などによる)。

タスク 3.2 に、次のコンテンツが追加されました。

- AWS AI ツールを使用してテストを生成し、反復的なテストワークフローを自動化する (テストの自動実行、テスト結果の分析、回帰テストのオートメーション、確実なテストカバレッジなど)。

タスク 3.3 に、次のコンテンツが追加されました。

- AWS コンテナオーケストレーションサービス (Amazon ECS のタスク定義、Amazon EKS マニフェスト、AWS Fargate 起動タイプ、ローリング更新など) を使用して、コンテナ化されたアプリケーションをデプロイする。
- CI/CD のワークフローをサポートするために AWS AI ツールを使用する (デプロイの自動承認、環境のプロビジョニング、デプロイ後の検証など)。

タスク 4.1 に、次のコンテンツが追加されました。

- AWS AI ツールを使用してエラー分析を行い、トラブルシューティングの提案を生成する。

タスク 4.3 に、次のコンテンツが追加されました。

- AWS AI ツールを使用して最適化の機会を特定する (パフォーマンスのボトルネック検出、リソース使用量の最適化、コード効率の向上など)。

DVA-C03 でのコンテンツの再分類

次のスキルとコンテンツ領域は、分野またはタスク間で再配置されました。コンテンツの範囲は変わりませんが、試験内の異なる場所で出題されます。

移動されたコンテンツ	(DVA-C02) から	(DVA-C03) へ
AWS SAM を使用したユニットテスト	分野 1、タスク 1.1	分野 3、タスク 3.2
AWS Lambda 関数のパフォーマンスチューニング	分野 1、タスク 1.2	分野 4、タスク 4.3
データのシリアル化と逆シリアル化	分野 1、タスク 1.3	分野 1、タスク 1.1
Amazon API Gateway ステージとカスタム分野	分野 3、タスク 3.4	分野 3、タスク 3.1
IaC テンプレート (CDK、AWS SAM、AWS CloudFormation)	分野 3、タスク 3.3	分野 3、タスク 3.3

DVA-C03 の構造的な変更

DVA-C03 では、複数のきめ細かなスキルを 1 つの包括的なアクション指向スキルに統合しました。この統合によって、必須スキルが軽視されるわけではありません。むしろ、試験は繰り返しを減らし、すべての分野で詳細レベルの一貫性を確保するよう再編成されました。次の表は、主な重要分野の統合前と統合後を示しています。

分野	DVA-C02 (統合前)	DVA-C03 (統合後)
Amazon DynamoDB	4 つの個別のスキル: パーティションキーと設計、整合性モデル、クエリオペレーションとスキャンオペレーション、キーとインデックス作成	すべての側面に対応する 1 つの包括的な DynamoDB スキル
セキュリティ (暗号化 + 機密データ)	タスク 2.2 + タスク 2.3 = 合計 13 スキル。タスク 2.2: 暗号化 (6 スキル)、タスク 2.3: 機密データ (7 スキル)	シングルタスク 2.2 = 7 スキル (1 つのタスクですべての暗号化とデータ保護)
テスト (テスト + 自動化)	タスク 3.2 + タスク 3.3 = 合計 11 スキル。タスク 3.2: テストアプリケーション (6 スキル)、タスク 3.3: テストの自動化 (5 スキル)	シングルタスク 3.2 = 5 スキル (AI テストツールと組み合わせて追加)
オブザーバビリティ	分野 4 での 8 つのオブザーバビリティスキル	5 つのオブザーバビリティスキル (3 つを統合)
最適化	分野 4 での 9 つの最適化スキル	6 つの最適化スキル (3 つを統合)

アンケート

この試験ガイドはどの程度役に立ちましたか。 ご意見をお待ちしています。 アンケートへの回答にご協力ください。